凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和４年度
第４号（７月号）

負けに不思議の負け無し

校長　椿　智絵

学校総合体育大会二市予選会、県南大会が終わりました。各会場を回り、選手たちの頑張りを見せてもらいました。どの種目でも精一杯プレイする選手がいて、一生懸命応援するチームメイトがいました。

試合に勝利して、最高の笑顔を浮かべる選手やチームがたくさんありました。県大会への切符を手に入れ、喜び合う姿もたくさん見ることができました。これまでの努力が実を結んだ瞬間に立ち会うことができ、うれしい気持ちが一杯になりました。

しかし、勝負には、勝ちがあれば、負ける側が必ずいるものです。負けたこと自体、信じられなくて、呆然としている姿、やがて、負けを実感して、選手たちが、ぽろぽろと涙を流している辛い場面にも遭遇しました。それは、私にとっても、とても悲しい場面でした。慰めの言葉も見つからないほどでした。

でもここで、敢えて言わせてもらえれば、負けて、涙を流した選手たちは、悔しさを自分の心でしっかり受け止めて、これからの人生の、また別の場面で、その悔しさをバネにして、もっと大きな喜びに変えていってくれるはず、そう、私は信じています。勝ったときの感激と同様に、負けたときの悔しさも、いつまでも心の中に残っているものです。そして、その悔しさは、これからの人生の中でその人を、頑張れ、頑張れと、背中を押してくれるのです。私は、自分の経験からもそう思っています。

中学３年の夏、当時は、まだ、３年生の最後の大会が夏休み中にありました。バスケットボール部に所属していた私のチームは、新人戦では市で優勝をしていましたが、県大会を決める試合は負けてしまっていました。春の学校総合体育大会を迎えたときには、新設校開校のため、学区変更があり、それまでチームの主力であったキャプテンと副キャプテンが４月から別の学校に行くことになってしまい、他から見れば大きく戦力ダウンをしていました。そのような中でしたが、最後の大会では、決勝まで勝ち進み、準優勝することができました。

県大会を決める試合は、新人戦の時と同じ相手でした。この相手チームは県大会で優勝しており、とても強いチームでした（その後の大会でも勝ち進み、関東大会にも出場していました）。

そんな相手に、手も足も出ず点差はどんどん離されていきました。県大会出場を目標に、頑張って練習をしていましたが、力の差は歴然としていて、残念ながら試合に負けてしまいました。

とても悔しかったです。情けなかったです。しばらくは、呆然として何も手が付かなかったように思います。

そのような経験から、もっとバスケットボールがうまくなりたい、もっと強いチームで戦いたいという気持ちが生まれ、次のステップにつながっていったように思います。

勝負には、勝ち負けがあります。真剣に取り組んでいればいるほど勝った時はうれしくなり、負けた時の悔しさは大きくなることでしょう。

大事なのは、その後です。「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負け無し」と言われているように、負けた時には必ず理に適わない原因があります。敗因を十分に分析・検討することが大切なのです。

悔しさを忘れないで、いつか、リベンジできる人になってほしいです。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp